

# ここに集まろう — たまり場 —

誰でも気軽に集まれる各行政区の集会所「たまり場」を中心に、地域住民の交流が広がりを見せる。たまり場での付き合いをきっかけに、ボランティア活動に積極的に参加するようになった人もいる。

少子高齢・人口減少社会を迎え、市民ひとりひとりの繋がりがますます重要になっていく。近隣住民が親交を深めることで、地域コミュニティが活性化するだけでなく、災害や犯罪を未然に防げる可能性もあるからだ。

牛久市も、「安全安心のまち、安心してずっと住みたいまち」を目指し、近隣住民同士で助け合う「近助きんすけ」の力の育成に力を入れている。

市は取り組みの一環として、地域の人が気軽に集まれる「たまり場」づくりを推進する。たまり場の利用者からは、「地域住民の顔が見えるようになった」「外出回数が増えた」といった声が聞かれ、成果が少しずつ見えてきた。



1



2



3

- 1 たまり場では、0歳の赤ちゃんから90歳を超える高齢者まで、幅広い世代が交流している。
- 2 たまり場ができて「練習しやすくなった」と話すフラダンスのメンバー。
- 3 太極拳サークルの様子。活動後のお茶会も楽しみの一つ。

## 趣味を通じて交流

牛久市では、地域コミュニティの活性化に貢献している集会所や区民会館などを「たまり場」と呼ぶ。年間3分の2以上無償で開放している、周辺地域を広く巻き込んだコミュニティづくりに役立っているなどの条件を満たせば、市から補助金を受けられる。平成26年度には、63行政区中21区がたまり場を運営している。

たまり場は、地域の会議や集会だけでなく、フラダンスや太極拳など、サークルやサロンの場としても機能する。特に、共通の趣味を通じて集まるサークルの利用率が高い。これまでも集会所を使用していた団体はあったが、会場使用料を支払うケースが多かった。たまり場として無料開放されるようになり、活動回数を増やしたり、サークル数そのものも増加した。



- 4 栄西行政区のたまり場「栄西集会所」。
- 5 第2つつじが丘のたまり場「第2つつじが丘区民会館」。
- 6 年間約1万5千人が利用する緑ヶ丘行政区のたまり場。避難所としても機能する。
- 7 緑ヶ丘のたまり場では、かっぱ体操終了時に合わせて生協の移動販売店舗が来てくれる。



## 広がる交流の輪

サークル活動を通じて住民が交流する機会が増え、コミュニティの活性化に繋がっている。緑ヶ丘の齋田文彦区長は、「人が人を呼び、利用者がみるみる増えていった」と盛況ぶりを話す。

さらに、たまり場での繋がりが、地域全体に拡大し始めている。イベントやボランティア活動の情報をたまり場で知り、参加を決める人も多いという。齋田区長は「あなたがやるなら私もやるというように、人の輪が広がっていくイメージだ」と取材に答えた。

一方で、たまり場にまったく顔を出不さない人を、いかに拾い上げるかが課題として残る。地域のイベントやサークル活動に興味を示さず、引きこもりがちなのもいる。

こうした人たちであっても、気が向いたときにふらっと立ち寄れるよう、各

行政区は工夫を凝らしている。第2つつじが丘では、新しいイベントやサークル活動を受け入れやすいよう、活動スペースの予約を、年間ではなく半年ごとに見直した。栄西では、毎週水曜日に「ふれあいカフェ」という、お茶会を開催している。事前の予約や団体への登録が

必要ないため、誰もが気軽に参加できる。同区の勝村孝区長は「顔だけ出しにくる人もいる。気が向いたらふらっと立ち寄れるような場所こそ、たまり場のあるべき姿、だと思う」と語った。

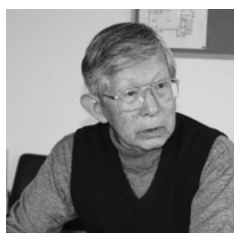
たまり場をきっかけに生まれた地域の輪をどこまで広げられるか。たまり場をさらに発展させるため、各行政区の模索は続く。

### さらなる利用拡大へ — 各行政区長から —



もっと利用しやすい場所になるように、男女別のトイレを作るなど、施設の増改築を検討しています。

栄西行政区長  
かつむら たかし  
勝村 孝 氏



たまり場の立地条件や地域特性などと向き合いつつ、実行可能な改善策を常に模索しています。

第2つつじが丘行政区長  
たつの ひでき  
辰野 英暉 氏



誰でも参加できる「たまり場ピンポン」を、6月から始めます。予約不要なので気軽にお立ち寄りください。

緑ヶ丘行政区長  
さいた ふみひこ  
齋田 文彦 氏

ぜひ、ご近所のたまり場についてみてください。詳しい利用方法などは各行政区長までお問い合わせください。

◆その他のお問い合わせ 市民活動課 ☎内線1634、1635